

第三回宮城縣道路愛護日實施の狀況

鈴木正助

宮城縣に於ては去る四月二十日を以て宮城縣道路保護協會と共同主催の下、道路愛護日を實施せり、客年迄は五月三日の定めなりしも右日取りは若干農村の行事に障りあることを認め本年より繰上げ實施せるものとす。

當日は絶好の好日和縣下到處客年にも増して盛況を極めたり。

以下其の狀況を概述せんに次の如し。

實施準備

道路愛護日の實施に就ては先づ廳内各部課の聯絡協調を圖り以て内部の陣容を整ふの緊要なるを認め即ち土木部長より各部長に對し別記計畫大要に基き協力方を依頼し三月十八日各部長名を以て警察署長、市町村長、中等學校長及小學校長、青年學校長に別記の通牒を又四月四日

には別記の告諭を發し並いて四月五日には管下の土木事務所長を縣廳に招集し別記事項につき指示協議を遂げ直接指導機關の萬全を期したり又宮城縣道路保護協會に於ては四月六日在仙臺齋藤報恩會館に第五回總會を開催、會員たる市町村長の參集を求め事業豫算（道路愛護日實施經費を含む）等を決議し會長たる飯島土木部長より會務の報告就中第三回道路愛護日實施につき親しく協力方を強調し一段と趣旨の徹底と實施の萬全を期せり。

斯くて主催者側として準備に一段階を劃し爾餘の準備は主として地方に移れるが何分實施期繰上げの爲、地方として餘日少く準備に容易ならざるものありし。然れども幸ひに地方の準備としては各土木事務所に於て開催の市町村土木主任の協議打合會に始るが各土木事務所に於

ける打合會は四月十日一齊に開催せることにも何等支障なく又市町村に於ける指導員の打合會も概ね順調に進むことを得、前途大に祝福せられたる感ありし。

管内土木事務所に開催の市町村土木主任打合會には縣より道路主事、道路技師を始め關係係員を夫々派遣し指導激勵に當らしめ市町村指導員打合會には土木事務所長を始め土木事務所各方面主任者を出席指導督勵に當らしむる等間然する處なからしめたり。

由に本項に於て特筆し度きは第一回の土木事務所及市町村に於ける打合會以來警察署長及中等學校長以下各校長臨席協議に參劃し實施に當り獨特の工風を凝らして實施上に協力の實を擧げられたる一事とす。

宣 傳

今回の實施は第三回に當るを以て道路愛護日の何ものたるかは略々縣民の知るところとなりしならんとは察せらるゝも夫れにしても之を閉却するときは實績の如何に至大の關係を有する點に鑑み、本年は右觀點に立脚し一

段と拍車をかく。宣傳の第一聲としては縣勢振興委員會（毎月廳内に開催する知事を會長とする部課長會議）鈴木道路課長より道路愛護日實施大要につき講演を試み協力を望んで之れを結んだに始まり、爾後諸集會の利用、各新聞社に依頼して道路愛護日の實施及準備等に關する記事を隨時掲載を乞ひ一般の注意を喚起せしめたことは特記すると共に感謝せねばならぬ點とす。各土木事務所及市町村等に於ける宣傳講演も縣に於けるものと大同小異の差あるに止りあらゆる機會を捕へ之れを行ひたる點は縣に勝るものあり。宣傳印刷物の配付は用紙の統制、用紙及印刷價格の騰貴の爲豫算の經理意の如くならざる爲、紙質を低下せしめ或はポスターを廢し立看板式のものに改め部數の減少を計る等の事あり而も縣下隅々迄趣旨を徹底せしむることを念とせざる能はざるものありて苦心せること甚し。最後に實施の前日即ち四月十九日午前十時より飯島土木部長は別記要領に依り仙臺中央放送局より第三回宮城縣道路愛護日の實施に就てと題し講演

を試み縣民に呼かけ宣傳を終る。

實施狀況

道路愛護日實施當日の天候快晴なりしこと本文冒頭に於て記述の如し。

當日は早朝より豫めのプロに基き指導班員岡崎道路技師始め各事務所管内に赴き夫々擔當市町村の部署に就き實施の指導督勵に當り、又飯島土木部長安部道路技師は仙北方面鈴木道路課長、石田道路技師は仙南方面に夫々自動車を驅つて巡視を爲せるの外、内務省より特に派遣相成りたる高野内務技師及和泉東北事務主任は鈴木道路主事及安部技師の案内にて夫々方面を定め長時間に互り親しく實施狀況を視察せられたるは特筆すべく又右兩氏の視察によりて縣下一段と緊張し如何に實績を擧ぐるに努めたかは必ずや他日取纏めの實績に反映すること疑ひを容れざる所にして感謝に堪へず。

今回の實績は未だ成績纏らざる爲茲に計數の掲記は困難なるも總指揮官たる飯島土木部長、副指揮官たる鈴木

道路課長以下の概評に依れば各市町村に於て小學校兒童を除き少くも一世帯一人の奉仕を目標とし前回百分に達せざりし向に對しては縣より特に通牒を發し尙一世帯一人に達せざる向は眞に國民精神總動員の一項目として銃後の護、勤勞奉仕の奉仕作業として認識を得ないものと認め特に指導督勵に力を注ぎたる一面興せ産業愛せよ道路と大呼して邁進せる結果一般に認識を深め本運動に理解を持つに至つたこと其の作業狀況によりて知り得たり

客年の成績に於ては總出勤人員は十八萬五千人を算し總世帯より一人宛作業奉仕するものと假定し約九十%に當りしも今回は以上の見地より算定して優に百分を超ゆるものと觀測せらるゝ狀況なり。

國民精神總動員道路愛護日實施計畫書

主 催 宮 城 縣
宮 城 縣 道 路 保 護 協 會

一、實施期 日

昭和十五年四月二十日

二、主催

宮城縣 縣

宮城縣道路保護協會

三、目的

國民精神總動員勤勞報國道路愛護心ノ涵養

四、參加團體

道路保護組合並其他各團體

五、實施ノ順序

(一) 集合 (場所ハ成ルベク當該氏神境内トス)

(二) 國旗掲揚及國歌合唱

(三) 宮城 遙拜

(四) 出征將兵武運長久祈願並戰歿將兵慰靈默禱

六、挨拶 (團體代表者)

七、作業 奉仕

(イ) 道路ノ清掃

(ロ) 道路障礙物ノ除去

(ハ) 側溝ノ浚渫

(ニ) 材料ノ蒐集及運搬配置

(ホ) 路面ノ修理

八、作業終了 (萬歳ヲ三唱シテ解散)

九、學校關係作業、愛護日當日小學校長、各中等學校長ニ對シ

左ノ方法ヲ講ゼシム

小學校

(イ) 尋常五年以上ノ兒童ヨリ道路愛護ニ關スル感想作

文 (三十字詰) (六百字以内) ヲ綴ラシメ其ノ學校ノ代表作一編

ヲ選ビ之ヲ縣ニ送付セシム

(ロ) 學校長ヨリ各兒童ニ道路愛護ニ關スル講話ヲ爲サ

シム

各中等學校

(イ) 各生徒ヲシテ道路愛護作業奉仕セシム

ル様獎勵ス

一〇、指導 監督

總指揮官

副指揮官

庶務班

土木部長

道路課長

主任 鈴木道路主事

園田書記

石垣屬

半澤書記

指導班

第一班 (仙臺、大河原、鹽釜)

主任 石田 技師

原 技手

齋藤(壽) 技手

第二班 (古川、石巻) 主任 安部 技師

中野 技手

第三班 (築館、佐沼) 主任 岡崎 技師

菊地 技手

一一、道路愛護實績考查

道路愛護日實施成績ハ市町村長ヨリ提出セシメ之ヲ審査ス
他日表彰ノ場合ハ資ニ供ス

一二、實施準備

本事業實施ノ爲四月五日各土木事務所長ヲ縣廳ニ招集シ實
施ニ關スル事項ニツキ協議打合ヲ行ヒ引續キ四月十日ニハ
各土木事務所ニ於テ市町村土木主任會議ヲ市町村ニ於テハ
部落代表各種團體長等ノ會議ヲ開催セシメ趣旨ノ徹底ヲ期
ス

一三、宣傳及依頼協調

本愛護日ノ實施ニ當リテハ舉縣一致實ヲ舉グルノ必要上一
般縣民ニ對シ先テ趣旨ノ徹底ヲ圖ルヲ肝要トス依テ左ノ
方法ヲ行フ

宣傳

(イ) ポスター、趣旨書、チラシヲ汎ク配付シ一般ニ周知セシム

(ロ) 放送局ニ依頼シ愛護日前日官廳事項トシテラヂオヲ通ジテ實施ノ趣旨ニツキ放送ヲ爲ス

(ハ) 各種集會ヲ利用シ講演ヲ行フ

(ニ) 自動車其他ノ交通機關ニ對シ「道路愛護日」ト記シタルマークヲ適當ノ個所ニ貼付セシメ一般ノ注意ヲ喚起セシムルノ一助トス

(ホ) 縣若ハ道路保護協會ニ於テ奉仕作業狀況ヲフィルムニ收メ巡回映畫ノ用ニ供ス

依頼並協調

(イ) 道路愛護デー實施ニ付キテハ廳内各部ト聯絡ヲ執ルト共ニ必要ト認メラルル他官廳其他ニ對シ協議シ又ハ依頼シ實施上萬遺憾ナキヲ期ス 以上

道第四一四號

昭和十五年三月十八日

宮城縣土木部長

宮城縣警察部長

宮城縣學務部長

市町村長殿

警察署長殿

中等學校長殿

小學校長殿

青年學校長殿

國民精神總動員第三回道路愛護日實施ニ關スル件通牒

來ル四月二十日日本年度道路愛護日左記要項ニ依リ實施可致候ニ付テハ本運動ノ趣旨御了承ノ上前年度實施ノ經驗ニ鑑ミ最モ有
效適切ナル方策ヲ樹立シ所期ノ目的達成相成様格段ノ御盡力相
成度

宮城縣告諭第一號

凡ソ交通運輸機關ノ整備ハ文化ノ普及産業開發ニ最モ密接ナル
關係ヲ有シ其ノ施設ノ良否ハ民力ノ消長國運ノ隆昌ニ影響スル
所甚大ナルモノアリ就中道路ハ普ク地方ニ分布シ其ノ利用範圍
亦極メテ廣汎ニシテ之レガ維持改善ハ地方開發上喫緊ノ要務ナ
リトス

今本縣下ニ於ケル道路延長ヲ徵スルニ國道府縣道ハ二、四八六
粍市道四五〇粍町村道一〇、二四九粍ニシテ其ノ合計一三、一
八五粍ニ亘リ所謂縣下道路網ノ根幹漸クナリタリト雖モ都鄙ヲ
通ジテ激増シタル近時ノ交通量及高速度車輛ノ發達ニ對應スル

ノ維持改善ニ就テハ財政ノ許ス範圍ニ於テ銳意力ヲ竭シツア
リト雖モ限リアル人員ト經費トヲ以テ其ノ完璧ヲ期スルハ蓋シ
至難ノ業ト謂フベク是レヲ以テ地元市町村住民ノ道路ニ對スル
熱烈ナル愛護ノ精神ニ基ク協力ト後援トニ期待スルヤ洵ニ切ナ
ルモノアリ願フニ縣民トシテ此ノ日進ノ社會ニ處シ各自ノ實生
活ニ最モ密接ナル關係ヲ有スル道路ヲ一層尊重愛護シ官民一致
之ガ維持保全ニ力ヲ盡シ道路本來ノ機能ヲ完全ニ發揮セシムル
ハ刻下ノ急務ニシテ又以テ地方民ノ福利増進ニ資スルノ所以ナ
リト信ズ今ヤ時局ハ愈々重大ニシテ國家ノ總力ヲ擧ゲテ東亞新
秩序建設ノ爲邁進努力セザルベカラザル秋ニ當リ國民精神總動
員運動ノ一項目トシテ道路愛護運動ヲ實施スルハ勤勞報國公物
愛護ノ觀念涵養ノ普及ニ資スル所大ナリト謂フベシ
本縣ハ茲ニ鑑ミル所アリ宮城縣道路保護協會ト協力シ四月二十
日道路愛護日ヲ實施シ道路愛護ノ美風ヲ振作シ其ノ實績ヲ舉ゲ
ントス此際各市町村並小學校及各種團體ハ勿論縣民一般ニ於テ
ハ進ンデ本趣旨ニ贊同シ道路愛護ノ觀念ヲ涵養シ社會奉仕ノ實
ヲ收メ以テ非常時局ニ對應セントト望ム

昭和十五年四月四日

宮城縣知事 清水良策

第三回道路愛護日實施指示事項

道路課

指示事項

- 一、道路愛護日參加指導督勵ニ關スル件
- 二、道路愛護作業實地指導ニ關スル件
- 三、材料ノ準備ニ關スル件
- 四、小學校兒童ノ道路愛護作業ニ關スル件
- 五、交通業者ニ對シ協力依頼ニ關スル件
- 六、市町村土木主任打合會開催ニ關スル件
- 七、宣傳用印刷物配付ニ關スル件
- 八、道路愛護成績調提出ニ關スル件

以上

道路愛護日參加指導督勵ニ關スル件

道路愛護日ノ實施成績ハ總體ニ於テ回ヲ重ナルニ從ヒ成績良好ナルヲ示シツツアルハ同慶ニ堪ヘサル所ナルモノヲ仔細ニ點檢シ來ルト遺憾ノ點ナシトセス今世帯ニ對スル就勞者百分比ノ等級ニ分チタル市町村表ヲ示セバ別表ノ通りニシテ世帯百ニ對シ五十人以上百人未滿ノモノ七五町村五十人未滿ノモノ一七町村計九二町村ヲ有スルハ遺憾ナリ殊ニ仙臺（一九、九%）及石巻（二、六%）ノ兩市ニ於テ甚シキ劣勢ヲ示スガ如キニ至リテハ特ニ考慮ニ値スルモノアリ各位ハ市町村指導ニ當リテハ方面

主任ヲ始メ修路夫ヲシテ指導精神ヲ一ニセシムルト共ニ能ク趣旨ヲ體得セシメタル所ニ基キ市町村ノ指導ニ力ヲ注ギ遺憾ナカラシメラレタシ尙縣ニ於テハ道路愛護日當日ハ別表ノ豫定ヲ以テ指揮官以下管内視察スベキニ依リテ承置相成タシ

視察豫定町村

土木部長

廣瀨、秋保、富岡、川崎、村田、團田、宮、白石、小原、七ヶ宿、大鷹澤、耕野、大張、角田、北郷、榎木、千貫、愛島、高館、中田 計二〇

道路課長

七北田、富谷、鶴巢、粕川、大松澤、下伊場野、敷玉、古川、東大崎、西大崎、岩出山、一票、長崎、一迫、築館、宮野、富野、澤邊、金成、萩野、大岡、若柳、石越、石森、淺水、米谷、志津川、横山、柳津、饒野川、石巻、鷹來、松島、利府、岩切 計三五

石臼技師

高館、富岡、村田、千貫、北郷、櫻、角田、館矢間、丸森、金山、大内、小齋、枝野、藤尾、坂元、山下、亘理、吉田、逢隈、岩沼、玉浦、東多賀、六郷、七郷 計二四

安部技師

七北田、富谷、吉岡、大衡、三本木、敷玉、松山、小牛田、
田尻、高清水、藤里、玉澤、築館、新田、北方、佐沼、南方、
米山、吉田、豊里、飽獄、前谷地、廣淵、鹿島臺、松島、鹽
釜、多賀城 計 二七

現在戸數ニ對スル就勞者百比例ノ等級ニ分チタル

市町村數

大河原	一	二	四	二	二	四	五
仙臺	一	一	四	五	九	三	三
鹽釜	一	一	四	三	二	一	三
古川	一	二	二	二	六	三	六
築館	一	一	二	九	七	一	七
石卷	一	一	一	二	〇	七	五
佐沼	一	一	三	五	八	三	二
計	三	六	一五	二九	五九	一七	一〇一

道路愛護作業實地指導ニ關スル件

道路愛護作業ノ跡ヲ見ルニ年ヲ逐フテ進歩シツツアルモ尙未ダ
相當考慮ヲ要スベキ點ナシトセズ作業ガ計畫のニ非ザルコト其
ノ一ニシテ即チ作業人員ニ比シ實績ノ擧カラサル原因ハ作業人
員ノ能率ノ低イト云ハンヨリモ能率ガ昇ル様ニ仕向ケザルニ原

因スルモノト認メラルルニ依リ之ガ改善ヲ圖ランニハ作業ヲ充
分計畫のニ實行スル様指導スルヲ要ス即チ先ツ受持作業ト受持
區域ヲ定メ而シテ一ヶ所ニ多數ノ作業奉仕者ガカタマル事ナク
全線ニ均等ニ分散セシメザル可ラズ此點善導相成度次ハ作業上
ノ缺點トシテ認メラルモノニ左ノ各項アリ

- (1) 拔取リタル雜草ヲ路面ニ投棄セルモノノ實例多シ路面ニハ
雜草ハ勿論泥土、塵芥ヲモ捨テシムルコトハ不可トス
- (2) 側溝ヨリ浚ヒ上ゲシ汚泥ヲ路傍ニ放置セルモノ亦少シトセ
ザリシ必ラズ汚泥ハ當日附近ニ捨テシムルコト
- (3) 障害物ノ除去ニ就テハ事前ヨリ督勵シ實績ヲ擧ゲシムルコ
ト

以上ノ(1)乃至(3)ノ各項ニ付テハ直チニ成績ヲ左右スルニ至ル
ベキヲ以テ特ニ留意ノ上善處相成度尙所要材料ハ豫メ路肩ニ
堆積セシメ置ク様指導相成タシ

材料ノ準備ニ關スル件

道路愛護作業ノ實績ヲ擧グルト否トハ團體の指導訓練ニ俟ツコ
ト多大ナルモ就中材料ニ俟ツコト亦少シトセズ
道路愛護日ニ於テ愛護作業所要ノ砂利、砂ノ如キ材料ハ當日採
取スルガ如キコトアリテハ作業能率ヲ擧ゲ得ザルヲ以テ各町村
ニ採取ノ場所ヲ指定シ豫メ之ヲ採取セシメ各丁場ニ配置セシム

ル様指導相成タシ尙町村ニ依リテハ材料ヲ得ントスルモ容易ニ得難キ向アルベキニ依リ是等ニ對シテハ其ノ蒐集ニツキ協力ノ實ヲ舉グル様措置セラレンコトヲ望ム

小學校兒童ノ道路愛護作業ニ關スル件

附愛護作文提出ニ關スル件

愛護日當日小學校兒童ヲシテ愛護作業ニ奉仕セシムルコトハ道路愛護心涵養ノ上ニモ最モ望ム所ナルモ何分兒童ハ純心ナルヲ以テ課サレタル作業遂行上無理ノ生ズル場合ナキヲ保シ難シ若シカカル爲ニ父兄乃至一般縣民ノ間ニ愛護日ヲ嫌厭スルガ如キコトアリテハ遺憾ニ付篤ト市町村及小學校當局ト充分聯絡アリ萬遺憾ナキヲ期セラレタシ尙小學校兒童ノ道路愛護ニ對スル感想作文ハ本年亦提出方配慮相成タシ昨年ハ提出セザル小學校相當多ク勸奨ノ趣旨ニ悖ルヲ以テ努メテ提出スル様配慮相成タシ

交通業者ニ對シ協力依頼ニ關スル件

交通業者ヲシテ愛護作業ニ協力方依頼スルコトニ關シテハ從來愛護ノ日實施ノ際屢々指示スル所ナルニ不拘實績ノ認ムベキモノ少シ想フニ協力ノ實ヲ舉ゲシムル爲ニハ熱意ト最善ノ方法トヲ必要トスル所ナルヲ以テ各位ハ深ク此點ニ留意シ身ヲ以テ指導獎勵ニ當リ實績ヲ舉グルニ努メラレタシ尙獎勵ニ當リテハ可

成當業者ヲシテ容易ニ參加シ得ル様仕向クルヲ肝要ナリト認ム例ハバ砂利、砂ノ運搬ヲ爲ス場合ニモ容器ヲ小ノモノトシ蜜柑箱ノ如キヲ用ヒ運搬セシムルニ於テハ「トラツク」ハ勿論「バス」、荷馬車ニ於テモ簡單ニ引受クルニ非ズヤト察セラル各位ハ交通業者ヲシテ參加セシムルコトニ就テハ一段ト工風ヲ凝ラシ誘導實績ヲ舉グルニ努メラレタシ

市町村土木主任打合會開催ニ關スル件

市町村土木主任打合會ハ道路愛護日繰上ゲノ爲餘日少キヲ以テ速ニ開催シ十分道路愛護日實施ノ趣旨徹底ヲ期スルト共ニ一般ニ對スル趣旨ノ徹底及愛護日實施ニ伴フ指導方法等ニツキ其ノ地方ノ實情ニ應ジ夫々方策ヲ講ゼラルベク尙本打合會及町村打合會ニ就テハ左記事項了承相成度

記

一、市町村土木主任打合會開催日時決定シタルトキハ不取敢電話ヲ以テ報告相成度

二、市町村ニ於テ開催スル打合會ニハ必ラズ所員ヲ臨席セシメ指導ノ徹底ヲ期セシメラレタシ

三、市町村ニ於ケル打合會ノ事項ハ出席所員名及指導概要書ト共ニ遲滞ナク提出相成度

宣傳用印刷物配布ニ關スル件

道路愛護日宣傳用トシテ別記ノ通印刷物ヲ配付スルニ依リ速ニ部數ヲ定メ左記要領ヲ示シ市町村ニ配布セラレタシ

一、ポスター

今回ノポスターハ立看板用ヲ兼シムル目的ヲ以テ調製セリ寸法ハ擴大セシメ部數ハ減少セシメタリ右了承ノ上樞要ノ場所選定ノ上揭示セシメラレタシ

二、道路愛護手帳

市町村部落及小學校長並小學校教員ニシテ指導員タル者ニ使用セシムルヲ主タル目的トス

三、角形チラシ

世帯ノ見易キ場所ニ貼付セシメントス小學校ニ依賴シ兒童ノ手ニ依リテ各世帯ニ配付セシメラレタシ尙配付數ニ不足ヲ告ゲタル際ハ丸形チラシヲ代用セシメラレタシ

四、丸形チラシ

乗用及貨物自動車ヲ主トシ他ハ適宜有效ニ使用セシメラレタシ

道路愛護成績調提出ニ關スル件

道路愛護成績調ノ様式ハ今回別記ノ通ニ之ヲ改メタリ右ハ從來ノ様式ニテハ往々誤謬ヲ招ク虞レアリタルニ依リ改正セルモノトス而シテ提出期ハ市町村ヨリ愛護日ノ翌日ヨリ起算シ五日以内ニ調製土木事務所へ提出スルノ定メト爲セルヲ以テ右了承ノ

上之ヲ取纏メ四月末日限縣ニ提出セラルベシ尙縣ニ提出ノ際ハ市町村別一覽表ヲ添付相成タシ

道路愛護作業成績調

何々市町村

道	種別	延長	作業時間	現住人員	就勞人員	愛護日使用材料	見積金額	摘要
府	道							
市	町村道							
其	他							
計								

備考

- 一、本調ハ一市町村ヲ總括セルモノトス
- 二、本調ハ道路愛護日ノ翌日ヨリ起算シ五日以内ニ調製シ所轄土木事務所長へ提出スルモノトス
- 三、就勞人員ハ總數ヲ一般人員及小學校兒童ニ區分スルモノトス（小學校兒童四年生以下ハ除ク）
- 四、中等學校生徒ノ參加數ハ一般人員ニ加算シ内譯トシテ左傍ニ×印ヲ以テ其ノ數ヲ記入スルコト
- 五、愛護日使用材料見積單價ハ豫メ所轄土木事務所ト打合テ懸ケ置クコト

第三回宮城縣道路愛護日實施に就て

(飯島宮城縣土木部長ラヂオ講演)

第三回本縣道路愛護の日は來る四月二十日を以て實施することに相成りました。前回迄は五月三日に定めてありましたが同日は農村の行事執行に障りがありますので本年より繰上げ實施することに致したのであります。

道路愛護の日は國民精神總動員の一項目として勤勞報國、公物愛護の立前で實施するのであります。

申迄もなく道路はお互朝夕利用して居る所のものでありまして之れが善否は私共の生活に至大の關係を持つて居ることは申迄もないことでありまして殊に刻下の非常時局に於ては國防の見地より將亦諸物質の國內輸送上から申して其の善否の影響する所大なるものがあるのであります。

道路には夫々の管理者があります。即ち國府縣道に於ては知事、市道は市長、町村道に付ては町村長が管理者でありまして管理者と致しましては財政の許す範圍に於て維持修繕費の豫算を求めまして其の衝に當つて居るのであります。

すが何分交通量が日に日に増加してやまぬ爲、道路の損傷程度も甚しくなつて來て居るので隨つて之が維持修繕費の増額も必要とするのであります。が何分にも縣始め市町村の財政は何れも窮迫を告げて居りますので増額して參ることは困難な實狀に在るのであります。

最う少し實狀を御諒解を願ふ爲に縣の實例を申し上げます。と國府縣道の延長は約二千五百杆でありまして之れが維持修繕費として道路工夫費を加へまして二十二萬九千餘圓程度の豫算を持つて居るのであります。今之れに依りまして一杆當の道路修繕費を算出致しますと(道路工夫給等の間接費用を除く)一杆當五十圓強となるのであります。之れを一里當に換算致しますと二百圓強となるのであります。道路に費す豫算としては維持修繕費丈でありますならば尙考慮の餘地はありませうが年々支出する豫算には道路改良費があるのであります。御承知でも御座いませうが縣内の道路と云ふ道路は概ね未改修路線で幅員狹少、屈曲多く勾配急、路面亦不良で、悉くが舊時代型のもので高速度交

通機關の交通に不適當のもののみなのでありますので是等の改良は目今の急務なのであります。が何分にも縣財政が以上申上げました通窮迫して居て之れが改良費の捻出が意の

如くではありませぬが然し産業文化の先驅であります所の道路の改良に着手せぬことは振興を策する所以でもありませんので昭和七年度以降政府に於て時局匡救事業として土木事業も認められましたので同年度以降に於て改良に着手致しました又昭和十一年度以降に於ては東北振興事業として土木事業も認めらるることになりましたので爾來道路改良にも着手致したのであります。此の外國の助成を受けずして縣單獨を以て改良に着手して居るものであります。

斯様にして改良事業に投じました經費は今日迄の處時局匡救關係が二百十五萬九千圓東北振興關係二百五十萬圓（昭和十四年度迄）縣單獨五十萬圓合計五百萬圓を突破して居るのであります。

年々支出して居ります道路改良費は之れを精算して參りますと巨額なものになるのであります。而して之れが財源

を何れに求めて居るかと申しますと悉く起債に仰いで居るのであります。が改良事業は繼續して參らねばならぬので今後起債の膨脹致すことも誠に已むを得ぬのであります。

道路行政の上には斯様な苦しい立場があるので道路の維持修繕費の増加には到底手が延びないのであります。から道路の維持保護には縣民各位の御協力に俟つものが多いのであります。管理者依存の弊を取去りましてお互の利用する道路はお互の道路であると云ふ觀念を持つて頂いて縣市町村と御協力して頂く、言葉を換へて申せば道路の上に皆様の愛の手を差し延べて頂くことでもあります。道路愛護の日は一世帯より少くも一名宛の家族に出て頂き相合した大きな團體の愛護作業をして頂くことになるので、これは取りも直さず縣民各位の偉大なる愛の手が差し延べらるる機会になるのであります。どうか此の愛護の日を能く御理解下さいまして宮城縣の道路愛護の日の實施が縣民各位の協力に依りまして縣下道路の上に偉大なる愛の力を反映さして頂き度いと切望して止まぬ次第であります。